

府立東豊中高等学校

電話番号：06-6831-3045

インターネットホームページ：

<http://www.higashitoyonaka.osaka-c.ed.jp>

電子メールアドレス：

Ⅰ 学校の概要

1 教職員及び生徒数

(1) 教職員数 56 人

(2) 生徒数

	1 年	2 年	3 年	合計
学級数	7 クラス	7 クラス	7 クラス	21 クラス
生徒数	283 人	277 人	277 人	837 人

2 教育課程の状況

普通科高校として、3 年次には、文系・文理系(看護・医療系、農学・薬学・生物系への進学をめざす)・理系の 3 つのコース選択を実施している。

確かな学力の基礎を作るため、平成 15 (2003) 年度から週 2 日の 50 分間 7 時間授業を実施している。

生徒の多様な進路ニーズに対応できるよう、学校設定科目(16 科目)を含め、多くの選択が可能となる新教育課程を設定している。

基礎基本の定着をめざして、1 年次には英語・数学での少人数展開授業(2 クラスを 3 展開)を実施している。

英語・数学・地歴科などで、講習(早朝・放課後)を実施し生徒の個別の能力に応じた指導を行っている。

3 研究開発のための組織

研究開発にともなう新たな事業への取組を円滑に行うため、本校生徒の実態や保護者のニーズを知る教職員と評価委員会の適切な役割分担を行うこととした。

また、本事業を活用して効果的な学校運営を実現するため、高等学校における教育活動を充実させる各種の事業との連携をはかることとした。(別図参照)

【事業の流れ・評価等】

1. 教職員による成果の検証方策原案の検討

2. 教職員による成果の活用方策原案の検討

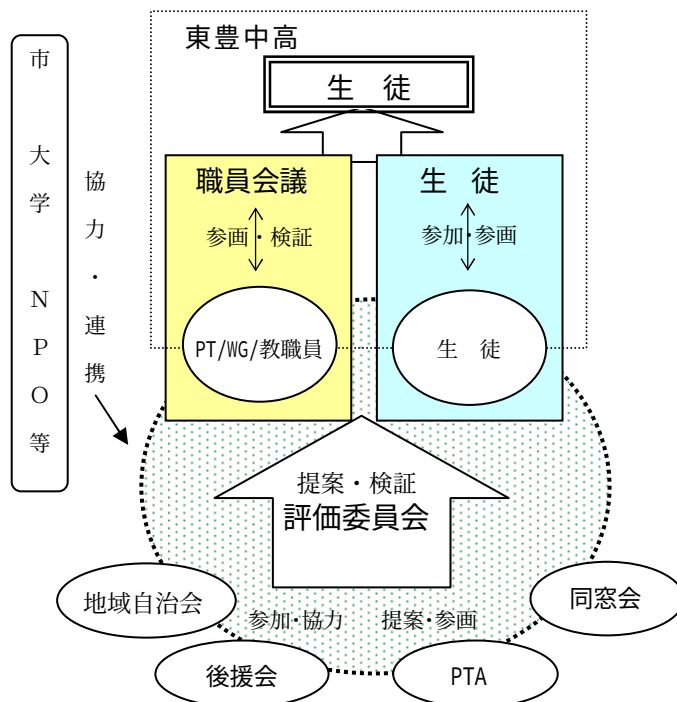
3. 評価委員会による検証方策、活用方策についての協議

4. 教職員による検証結果の取りまとめ

5. 評価委員会による検証結果を踏まえた協議と展開の方向性協議

6. 職員全体への成果の報告と指導の充実に向けた方向性の検討

【推進のための組織等】



4 評価委員会の構成

地域自治会関係者 (地域活動との連携)

地元公民館職員 (地域活動・人材との連携)

中学校関係者 (地域教育協議会との連携・保護者ニーズの把握)

本校卒業の大学生 (進路選択・若者の参画)

地元の行政組織関係者 (部活動の活性化)

本校教職員 (生徒会・進路・生活指導)

本年度は、本事業の円滑な進行を図ると共に、学校の運営の改善を効率的に検討するため、学校協議会委員とあわせて委嘱し、協議の内容を深めることとした。

【校内委員会等の開催】

- 7 月 15 日(金) 第 1 回推進協議会(府教育 C) 2 人

- 7 月 21 日(木) 第 1 回校内 PT 会議 6 人

- 9 月 2 日(金) 第 2 回校内 PT 会議 7 人

- ・ 10月7日(金) 第3回校内PT会議 6人
- ・ 10月18日(火) 第4回校内PT会議 8人
- ・ 10月21日(金) 取り組み事例視察(刀根山高校) 1人
- ・ 11月7日(月) 第2回推進協議会(府教育C) 2人
- ・ 1月17日(火) 第5回 校内PT会議 6人
- ・ 1月23日(月) 第3回推進協議会(大阪教育大学) 3名
- ・ 2月6日(月) 第6回 校内PT会議 8人
- ・ 3月2日(木) 第7回 校内PT会議 予定

【評価委員会議の開催】

第1回 7月7日(木) 学校協議会

- ・ 学校の運営改善に向けた意見交換
- ・ 本年度の取組目標等に関する説明
- ・ 新規事業「府立学校経営革新プロジェクト事業」に関する説明と評議会委員への委嘱予定の説明

第2回 11月16日(月)～11月22日(火)

事業評価委員会(持ち回り)

- ・ 「府立学校経営革新プロジェクト事業」の具体的な取組に関する意見聴取

第3回 11月29日(火)

学校協議会・事業評価委員会

- ・ 事業計画に関する進捗状況の説明
- ・ 再編整備に関連する新たな学校づくりの方向性についての意見交換

第4回 2月13日(月)

学校協議会・事業評価委員会

- ・ 本年度事業成果の報告
- ・ 事業に関する評価
- ・ 来年度事業の取組に関する改善提言

II 事業計画

1 学校の状況と課題

(1) 学校の立地状況

北大阪急行・大阪モノレールの千里中央駅から1km程の位置にあり、大阪市内や茨木・門真市方面からのアクセスも良く、自然環境に恵まれた地域に立地している。

校地は50,000平方メートルの広さを持ち、2つの体育館とビニールドームの付いたプールな

どがあり、多くの生徒が部活動に取り組んでいる。

(2) 生徒の状況

入学者の学力は中位程度であり、進路希望状況や実績にも、ここ数年顕著な変化はみられない。

このような状況の中で、生徒に対する継続的な指導がしだいに成果を上げ、部活動加入率が向上したり、懲戒件数が減少するなど、好ましい変化のきざしが現れている。

16年度に実施した学校教育自己診断の結果によると、学校生活全般に関し満足度は高く、体育祭・文化祭などの学校行事や部活動などには意欲的・積極的に取り組んでいるが、学習意欲の向上につながる取組とはなりきっていない。

教員一人ひとりは個々に高い資質・能力を有しており、組織・集団としての情報の共有化を進めることによって、より一層の成果をあげる可能性を持っている。

(3) 学力向上に関する課題

進路希望と現実の進路決定の差について見るとき、現状の能力に合わせるような傾向が強いものがある。明確な進路意識を持たせ、それに向かって全力投球する姿勢を持たせるため、生徒のみではなく、保護者をも対象に、外部講師を招いた進路講演会や進路相談会が必要。

長期欠席や深刻な不登校傾向のある生徒は多くないが、規律を守った生活に適応しきれない生徒も見られる。自覚を促すような生徒指導を基盤に、多くの教職員が早朝指導などを行ってきた成果として、遅刻する生徒の数が減少し始めている。

進路の実現に向けて、学習に集中できる環境づくりを行うという観点から、地域の人たちとの交流を通して「地域のリーダーとなる」という自覚を高めることを通した指導方法等の検討が必要。

(4) 生徒の自己実現に関する課題

学校生活に十分に満足感を持っている生徒が多いが、自分の能力を一層高め、より高い目標に向かってチャレンジしようという意欲が弱い生徒も見られる。生徒に目標到達の経験を積み重ねさせ、達成感や自尊感情を高めることを通して、学習意欲の向上と規範意識の育成を図ることが必要。

1. 学習意欲の向上と充実した学校生活を実現する相談体制づくり
2. 希望する進路と実際の進路の較差をなくするための学習環境づくり
3. 地域に根ざしたリーダーとなる自覚を育む生徒指導

2 教育目標

(1) 取組目標

ア 地域の団体・組織等との交流活動の充実

地域や中学生等との交流を充実することで、生徒の自己達成感などを育て、学校生活への意欲づけをめざす。

3年後には「年間24回」を目標として、地域行事への参画、部活動の中高連携などに取り組むこととする。

イ 生徒への相談体制の充実

進路や生活上の悩みに対する個別面談等の充実により、学校生活を通した健全な成長を図ることをめざす。

相談室の機能強化による相談体制の充実と、年2回を目標として「相談週間を設定」などに取り組むこととする。

ウ 多彩な取組につながる新たな連携先の開拓

大学・NPO・民間教育機関・自治会など本校の教育活動に幅を与えてくれる外部との連携をめざす。

「各年次1件の連携先の新規開拓」と、3ヵ年の合計で15回の卒業生・外部講師等による進路学習会等の実施を目標とする。

(2) 成果目標

ア 部活動への生徒加入率の向上(80%をめざす)

イ 生徒の進路第一希望達成率を高める(90%をめざす)

ウ 気軽に相談室(進路・生徒)を利用する生徒を増やす(30%増をめざす)

エ 学習意欲を高めるための遅刻数の減少(30%減をめざす)

III 事業の成果

1 教育実践の概要

3ヵ年を見通して、それぞれの年度の位置付けを行い、拙速な改変ではなく、生徒の指導に確実に反映するような基礎づくりから取り組むこととした。

- ・H17年度：PTA・後援会・地域等への働きかけ。部活動をきっかけとした地域交流への着手。進路支援のための外部人材確保の体制づくり。
- ・H18年度：校内体制の確立による組織的取組化。学校支援のための体制確立。総合的な学習の時間等を利用した体験学習等への取組拡大。
- ・H19年度：改革成果の校務他分野への波及を図る。教科教育活動の充実等。生徒指導体制の確立。

(1) 学習に関するアンケート

事業のプロジェクトチームが原案を作成し、全学年の生徒を対象に、各科目の理解度や授業に臨む家庭学習の状況などを問いかけた。

市販のマークカードを活用し、効率的に結果を集約・分析できるものとした。回答の背景にある個別状況の分析につながる部分に踏み込んだ設問が十分にできなかった点には、今後も継続的な追跡が求められる。

【アンケートの実施概要】

実施日：11月24日(木) LHR、25日(金) SHR

有効回答：3年248人、2年253人、1年269人

【生活に関するアンケートの項目】

A) あなたの性別は？

0 = 女性 1 = 男性

B) あなたの学年は？

1 = 1年 2 = 2年 3 = 3年

C) 日々の生活の中で、一番充実していることは何ですか？

0 = 勉強 1 = クラブ活動 2 = 友達関係
3 = アルバイト 4 = その他

D) 土日(休日)に、一番時間を費やしていることは次にうちどれですか？

0 = 勉強 1 = クラブ活動 2 = 友達と遊ぶ
3 = アルバイト 4 = 家族と過ごす
5 = ボランティア活動 6 = その他

E) 入学時の進路希望は？

0 = 四大(文系) 1 = 四大・短大(理系)
2 = 短大(文系) 3 = 四大・短大・専門学校(看護・医療系)
4 = 専門学校 5 = 就職(公務員)
6 = 就職(一般企業) 7 = フリーター
8 = 未定

F) 現在の進路希望は？

- 0 = 四大（文系） 1 = 四大・短大（理系）
 2 = 短大（文系） 3 = 四大・短大・専門学校（看護・医療系）
 4 = 専門学校
 5 = 就職（公務員） 6 = 就職（一般企業）
 7 = フリーター 8 = 未定

※F) については3年生のみ、次のように変えた。

あなたの授業選択コースは？

- 0 = Aコース（人文・社会学系）
 1 = Bコース（薬学・看護系）
 2 = Cコース（自然科学系）

【アンケートの結果】

C) 日々の生活で充実したも	3年		2年		1年		合計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
0 勉強	21	9	10	7	11	8	66
1 クラブ活動	10	7	51	33	47	27	175
2 友達関係	49	90	30	59	41	86	355
3 アルバイト	4	9	7	7	3	9	39
4 その他	22	31	20	31	21	18	143
合計	106	146	118	137	123	148	778

D) 休日に費やしていること	3年		2年		1年		合計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
0 勉強	38	28	2	1	1	0	70
1 クラブ活動	4	1	57	44	55	48	209
2 友達と遊ぶ	21	42	25	28	23	43	182
3 アルバイト	12	29	13	30	6	28	118
4 家族と過ごす	5	12	8	10	7	9	51
5 ボランティア	3	0	1	3	0	0	7
6 その他	23	33	11	23	25	19	134
合計	106	145	117	139	117	147	771

部活動への参加が多い本校の現状を示す結果となっているが、3年生を見ると部活動のレギュラー活動が終了した後、本格的に学習に取り組む様子がわかる。女子の場合には友達関係の充実を上げている生徒が多く、進路を考える上でも部活動などを通して培った人間関係が役立っていることを感じさせる。

それぞれに具体的な時間を設定せず、生徒自身の感覚的なものとして、意識のありどころを問うものとした。

1・2年生で勉強に時間を費やしていると実感する生徒が少ないが、教科指導を担当する教員側からは、日ごろの教科の宿題や課題提出については、どの学年もまじめに取り組んでいると受け止めている。

不得意な教科の弱点補強など、自分なりの課題を設定しての学習が十分でないということだと考える。

2年の後半になると明確な進路意識を持つようになり、未定と答える人数が減る。先輩などの姿を見て具体的なイメージを持ち、情報をもらうなどによ

る意識固めをしている様子がわかる。

ただ、1年生女子では、入学後7ヶ月あまりを経た段階で、多様な進路の存在を知ることによって未定と答える数が増えているのではないかな。

E) 入学時の進路希望	3年		2年		1年		合計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
0 四大(文系)			60	50	39	47	196
1 四大・短大(理系)			22	2	26	13	63
2 短大(文系)			1	17	6	18	42
3 看護・医療系			6	17	8	21	52
4 専門学校			8	24	12	32	76
5 就職(公務員)			1	0	2	2	5
6 就職(一般企業)			1	2	2	4	9
7 フリーター			0	0	0	1	1
8 未定			18	24	25	20	87
合計			117	136	120	158	531

F) 現在の進路希望(決定先)	3年		2年		1年		合計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
0 四大(文系)	60	52	66	50	38	41	307
1 四大・短大	17	4	15	2	24	8	70
2 短大(文系)	4	29	2	17	1	14	67
3 看護・医療	8	14	5	14	9	21	71
4 専門学校	12	39	13	28	18	33	143
5 就職(公務員)	3	0	4	1	2	2	12
6 就職(一般企)	2	4	5	3	1	3	18
7 フリーター	0	1	0	0	0	2	3
8 未定	0	3	6	20	24	28	81
合計	106	146	116	135	117	152	772

【授業に関するアンケート項目】

G) 下記の選択肢と次のページの教科一覧表を見て

「」の数字をマークカードの番号欄に対応させて記入して下さい。

・理解とは、各教科・科目の理解度を選択して下さい。

- 0 = よく理解できた 1 = 理解できた
 2 = 理解できない部分もあった
 3 = 理解できなかった

・要望とは、授業に求める内容を選択して下さい。

- 6 = もっと詳しい内容まで学びたい
 7 = 今のままでよい
 8 = 基礎・基本的な内容でよい 9 = 別にない

・学習努力とは、自己努力を自らで評価し選択して下さい。

- 0 = 全力で努力している 1 = 努力している
 2 = ほとんど努力していない
 3 = まったく努力していない

・満足とは、各教科・科目に対する満足度を選択して下さい。

- 6 = 非常に満足 7 = やや満足 8 = やや不満
 9 = 不満

【アンケートの結果】

	1年		2年		3年	
	合計	率	合計	率	合計	率
【理解度】						
よく理解	608	14.8%	455	14.0%	170	16.3%
理解	1617	39.3%	1318	40.5%	333	31.9%
一部理解できない	1393	33.8%	1031	31.7%	373	35.8%
理解できない	499	12.1%	448	13.8%	167	16.0%
合計	4117	100.0%	3252	100.0%	1043	100.0%
【要望】						
もっと学びたい	410	10.4%	354	12.0%	149	14.9%
今のまま	2023	51.5%	1574	53.3%	465	46.6%
基礎基本	979	24.9%	658	22.3%	226	22.7%
別がない	518	13.2%	366	12.4%	157	15.7%
合計	3930	100.0%	2952	100.0%	997	100.0%
【努力度】						
全力で努力	508	12.8%	393	12.7%	164	16.2%
努力	1972	49.8%	1501	48.5%	447	44.2%
ほとんどしない	1165	29.4%	904	29.2%	302	29.8%
まったくしない	316	8.0%	294	9.5%	99	9.8%
合計	3961	100.0%	3092	100.0%	1012	100.0%
【満足度】						
非常に満足	601	14.9%	446	14.5%	163	15.8%
やや満足	1865	46.4%	1531	49.9%	453	44.0%
やや不満	1074	26.7%	689	22.5%	241	23.4%
不満	481	12.0%	402	13.1%	172	16.7%
合計	4021	100.0%	3068	100.0%	1029	100.0%

努力の度合いと理解度がかなり強い相関関係を持っており、学習に意欲を持たせるような指導の充実が効果をあげていることが分かる。

学習活動にはおおむね満足しているが、進路をしっかりとみすえた努力目標の設定などを支援する必要がある。

(2) 相談月間

生徒相談においては、毎月の相談便りの発行や、昼休みに担当者をおき相談室を開放するなど、常に相談活動が生徒の身近に感じられるように配慮している。

また、今年度は悩みが生じてから教師が相談にのること以外に、生徒自身が自分をコントロールできるように、予防カウンセリングに力をいれた。

11月を相談月間として生徒たちへの広報を強化し、3回連続研修を行った。講師・指導はいずれの回も本校配置のスクールカウンセリングスーパーバイザー 八尾 勝さん。

- ・11月11日(金)13:00～ 参加：教員7人生徒16人
「自己理解の為に～私はどんな人(エゴグラム)」
- ・11月18日(金)15:30～ 参加：教員6人生徒4人
「ストレスマネジメント」
- ・11月25日(金)15:30～参加：教員7人生徒11人

「心の知能指数(EQテスト)」

また教員側の心理学関連の技能を深める為に、箱庭を購入したり、第1学区の教育相談担当者会議を本校の職員研修と兼ねるなど、生徒相談の重要性について理解を深める機会とした。



箱庭を用いた研修の一場面

- ・12月9日(金)15:30～ 参加：13人
「軽度発達障害の理解と対応について」
講師：八尾 勝さん
- ・1月27日(金)14:00～ 参加：12人
「箱庭について」講師：八尾 勝さん
「エゴグラムから見た自己理解」
講師：臨床心理士 足利 学さん
- ・2月3日(金)15:30～ 参加：11人
「箱庭について」
講師 京都文教大学臨床センター串崎幸代さん



箱庭を用いた研修(2月3日)

また、進路指導に関しては、4月26日(火)には大学・専門学校等の外部講師(25名)を招き、3年生を対象とした「進路別説明会」を実施した。さらに、

進路をめぐるさまざまな課題の解決の一助と考え、2月10日（金）には2年生を対象に奨学金に関する講演会を開催するとともに、1・2年の保護者を対象に学習会をもった。参加：46人。

（3）研修・視察等

生徒に対する効果的な指導を考える上で、思春期の特性についてすべての教職員が認識を共有することが必要であると考え、人権研修を初めとした各種の研修を「生徒の多面的な理解につながる講演会・研修会」として体系付けた。

【研修】

- ・ 10月6日（木）「エイズ・性感染症の予防について」
石川クリニック院長石川英二さん、豊中市保健所
- ・ 10月20日（木）「暴力に頼らない問題解決法」
NPO 法人 女性と子どものエンパワメント関西事務局長 森山順子さん
- ・ 2月27日（月）「元気が出る学校づくり」
くいだおれ 専務 柿木道子さん
- ・ 3月1日（水）「境界線について」
NPO 法人 女性と子どものエンパワメント関西事務局長 森山順子さん

講演会やワークショップ方式の研修、先進的な取組を行う学校視察などにより、従来の取組を発展させるための意識変革やノウハウの収集を図った。



【学校訪問】

- ・ 1月10日（火）福岡県立青豊高等学校（総合学科）
『夢をカタチに！』をモットーに、進学に重点をおき、トマト一株から一万個の実が成ることから「トマト作戦」を展開している。

教育目標の3H「賢く(Head)・優しく(Heart)・たくましく(Hand)」に向けて、「マイライセンス(最低1資格以上)・マイボランティア(年1回以上参加)・マ

イチャレンジ(あらゆる分野から1目標達成)」という取組を実践・評価しており、学校の活性化と生徒自身の意識改革・自立に大きく貢献している。

- ・ 1月16日（月）東京都立晴海総合高等学校
約106億円の工事費をかけた都立総合学科高校の第一号である。「ノーチャイム・ノー放送」で生徒の主体性を促し、三年間の集大成ともいえる「課題研究」で論理的に考える能力を育成している。

キャリアカウンセラーの専任配置を受け、きめ細かい進路指導を背景に、スタディグループ（平日の個別補習）及び30を越える夏期講習講座の充実で、多岐にわたる進路希望の実現を図っている。進学の願いに応えられる都市型の総合学科高校をめざしている。

（4）地域連携

本校の生徒は、部活動や各種の学校行事に積極的に参加するなど、学校生活にはしっかりと帰属しようとしている。そういう生徒にとって、地域の一員として何らかの貢献を体験することは、活動の意欲を高めることにつながると考える。

具体的な取組としては、部活動を中心とした地元の夏祭りや文化祭への参加、学年ごとの校外清掃活動の実施、教職員有志による地元の公園管理組織への参画などに取り組んだ。



【参加実績】

- ・ 新千里南町夏祭り：吹奏楽部、フォークソング部、ダンス部 合計 36人
- ・ 新千里西町夏祭り：吹奏楽部 23人
- ・ 新千里南町文化祭：吹奏楽部、書道部、茶道部 合計 30人
- ・ 校外清掃：1年 11月24日（木） 272人
2年 1月12日（木） 264人

- ・豊中市公園管理・地元組織：教職員 2 人が参画



2 教育実践の成果

(1) 学習に関するアンケート

本校に対し総合学科高校の設置案が示されたことを受け、今までの取り組み成果を共通認識し、継承発展させるべき基盤を発見するための材料とした。

(2) 相談月間

2 年間にわたるスクールカウンセラースーパーバイザーの配置で培った、生徒の不安や悩みを受け止める体制づくりを、より充実したものとできた。

(3) 研修

生徒を理解するためのアプローチの手法には、さまざまなものがあるということについて、多くの教職員が知ることができた。

(4) 地域連携

異年齢の生徒への指導経験などを通して日頃の活動では体験できない達成感や、主体的に企画したり行動することの喜びを体験することができた。

3 目標の達成度

(1) 取組目標

ア 地域の団体・組織等との交流活動の充実

交流を進める部の数や交流機会の数を合計し、3 年後の年間目標 24 回として設定した。本年度は、のべ 7 クラブの 89 人が 3 回の地元の行事に参加し、5 クラブが 20 回の交流練習を実施し 445 人の小中学生が参加をした。地道な取組の積み重ねで予想を大きく上回ることができた。

イ 生徒への相談体制の充実

「箱庭」の整備や学区スクールカウンセラー研修、校内教職員研修の実施など、生徒を知り受け止める姿勢の共有が進んだ。

また、新たに設定した「相談月間」に開催した

専門家による講習会には、生徒の参加も見られ、心理学の分野への興味も引き出すことができた。

ウ 多彩な取組につながる新たな連携先の開拓

私立大学・短大外部講師等による進路学習会等を実施するなど、今までの取組を発展させる一方で、思春期の子どもとの関わり方について、ワークショップの形式によるアプローチのノウハウを知る専門機関との連携をつくることができた。

(2) 成果目標

ア 部活動への生徒加入率向上

事業着手が部活動の本格的な活動開始後であったため、本年度では比較対照できるデータはない。

中学生への学校説明会などにおいては、活動中のほぼすべての部において、出迎えや見送りなどに参加をして部活動への取組をアピールした。

そのような姿を見て「進学先を選びたい」との感想を寄せた中学生が 71.5% にのぼった。

イ 生徒の進路第一希望達成率向上

現時点においては、事業着手後の進路決定を行った生徒がいないために、数値的な比較ができない状況にある。

ウ 相談室(進路・生徒)を利用する生徒増

本年度は、新たに相談に関わる研修等を実施し、不安や悩みを抱える生徒だけではなく、潜在的な関心を持つ生徒への働きかけを中心に行ったため、具体的な数値把握が困難であった。

エ 遅刻数の減少

考査前、学校行事の後などの教職員による登校指導や、服装・頭髪指導など総合的な生徒指導の取組によって、対前年比 34% の遅刻数削減(12 月末現在のデータで比較)ができた。

4 評価委員会による評価と提言

(1) 教育実践に対する評価と提言

学習に関するアンケートは無記名にしたことで、正確さが担保できている。個別の授業評価もあるが、生徒の意欲をどう高めることにつながるのかが大切だ。教職員の研修などを通して、適切な方策について協議する機会を持つことなどが、成果をあげることににつながるのではないかな。

地域連携についても、それに参加する生徒の達成

感を重視し、意欲づけを行っている現在の状況が拡充されることを期待する。

(2) 取組目標の達成度に対する評価と提言

さまざまな分野における取組を精力的にこなしている。地域連携については、若い世代の参画に感謝している。目標達成の度合いには差があるが、今後もこの方向性を継続されるよう期待する。

(3) 成果目標の達成度に対する評価と提言

部活動の充実が成果をあげているようだし、学習面でも生徒の日々の生活を支えている。学習への切り替えをしっかりと意識付けて、自分の進路を実現できる指導も合わせて求めたい。

(4) 外部との連携に対する評価と提言

地元との連携に加えて、専門的な組織との連携も教育活動の充実には重要である。着実な広がりを目指す。

さまざまな実践的活動を行っている組織や団体があるが、できるところから関係を構築していくことが成果につながるので、広報面での協力などを行うことを期待する。

IV 18 年度への課題と改善点

1 今年度末における学校・生徒の状況

教職員の間には、学校に対するニーズの変化に対応し、必要な変革に取組もうとする意識が生まれつつある。

平成 17 年 8 月に再編統合の対象校となり、新しい学校づくりに向けて、本校の教育活動の総括などを行うための組織設置を行ったが、本事業の進行を関連させていくことで、さまざまな対応を行うことができた。

また、授業を大切に指導や、服装・頭髪等のさまざまな指導を総合的に行っていることで、遅刻数の減少傾向が定着したものとなっている。

部活動に参加している生徒はもとより、ほとんどの生徒が東豊中高校での生活に、しっかりとしたアタッチメントを持つようになっている。

2 教育目標の課題と改善点

(1) 取組目標の課題と改善点

小中学校との連携は生徒にとっても活動の意欲を高める成果をもたらしており、地道な活動の継続が信頼を強くすることになると考える。一方では、質

的な変化をはかりやすい取組についても、今後検討する必要があると考える。

(2) 成果目標の課題と改善点

学校が一体となって進めている学校説明会などが勧誘の効果を高めるとともに、何よりも各種の大会等における生徒の活躍が加入率向上に役立っている。また、1 年次からのガイダンスの積み重ねが進路実現の柱になることから、進路指導部が取組を始めているガイダンスを一層充実することが効果的だと考える。生徒相談については、取組の進展に伴い、相談の回数といった量的変化ではなく、質的变化に注目した指標設定の検討が必要である。

生徒指導については、数年来継続してきた総合的な取組が成果をあげつつあり、現在の方向の延長線上の取組を進めることが効果をあげると考える。

3 教育実践計画の課題と改善点

生徒を知ること、学校を知ること、新たなアプローチを知ることなど、教職員の間には大きな変化が生まれたと感じる。従来の実践を総括して次につなげるという意識が定着するよう、現在の方向性を保っていききたい。

4 外部との連携についての課題と改善点

総合学科新高校の設置に向けても、本校の取組が基盤となるものであり、前倒しに連携を促進して在校生にとってメリットのあるものとする必要がある。本年度の取組で得たつながりを、強化していくことが教育活動の充実につながると考えており、連携した取組を対象とした指標設定なども視野に入れて改善の検討を行いたい。

5 その他の課題と改善点(校内組織の見直し等)

本年度においては、年度途中からの事業着手ということもあり、既存の校内組織ではなく、教職員への呼びかけによる有志としてのスタートを切った。

一年間の取組を通して、成果が見えてきた点などから、全体の取組として拡大する方向性を検討する必要がある。

とりわけ、本校においては、本事業の事業成果の継承と拡充が、そのまま新校づくりへと関わっていくこととなり、両者の役割分担を行うことが、事業効果を高めることにつながると考える。